

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393500016		
法人名	有限会社 桜花		
事業所名	グループホーム さくらそう A棟		
所在地	岡山県吉田郡鏡野町小座424 - 1		
自己評価作成日	平成22年9月28日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatioPublic.do?JCD=3393500016&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成22年10月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・職員が利用者一人ひとりの生活状況を把握し、一日の生活の流れや食事の嗜好、生活習慣等へ支援していく事。</p> <p>・ターミナルケアを実施、ホームでの看取りを家族、医療関係者と十分な話し合いをして、受け入れる。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームの設立以来五年目を迎えた。一つの大きな節目を乗り越える為の大切な1年となるだろう。1年前に設立した代表者が急死され、奥さんと息子さんがそのあとを継いでいる。2人の管理者と計画作成担当者と共に「利用者」と家族が安心して生活出来るホーム、職員が優しく仲良く働ける職場づくり」を達成していきたいと改めて目標を掲げている。精神科の看護師として長く病院勤めをした管理者は高齢者が大好き、明るく楽しくいつまでも安心して暮らしてもらいたい。他の管理者も利用者のストレスが貯まらないよう、その人らしい生活が継続できるようにと抱負を持っている。計画作成担当のケアマネジャーは、利用者や家族の心情や家庭事情を十分に認識して信頼関係を保っていきたくコミュニケーションに気を配っている。それぞれの責任ある立場の人の思いを一つにして、更に利用者の安心して生活出来る居場所をつくっていこう。</p>

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 開設以来の基本理念がある リビングに掲示している 理念について管理者がスタッフへ問いかける 	<p>代表者の理念は、職員同士で仲良く働き、その結果が利用者の福祉につながるという思いである。代表者と職員のコミュニケーションは日常的に成立しているため、共通認識は実践されている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域行事への参加 ふるさとまつり、小学校の運動会 清掃活動 など 	<p>町内清掃に参加したり、小・中学校との交流は拡大の方向で継続している。子供の110番やAEDの設置の地域貢献に加え、認知症に関する専門知識を地域の人に理解してもらえらる機会を設定することも重要なホームの役割である。</p>	<p>子供110番とAEDの設置は整っているため、これ等の資源を活用して、ホームで地域住民参加の講習会を開催し、地域との付き合いを開始していったらどうでしょうか。</p>
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 施設周辺を散歩し、地域の人に会えば挨拶や会話を交わす 問い合わせ等あれば常時対応 		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> 二ヶ月に一度実施 参加者の枠が広がってきている 会議で出た意見は常に前向きに検討していく 	<p>運営推進会議の中で討議された非常口の段差解消工事と夜間想定した避難訓練を実施した。ボランティアの受け入れ等についても運営推進会議から発展させていくと、定着性とホームの理解につながっていく。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> 入退所、入所状況、事故発生等の報告 問題事例等があればその都度、報告、相談している 	<p>困難な問題はユニット間で協議し、解決困難な時は町担当者に相談している。町側からは研修会等の情報を提供してくれる。良い協力関係が維持できている。</p>	
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> 機会ある毎に身体拘束をしないことをスタッフに伝え、介護の方法を考えている どのような事が身体拘束になるのか伝えている 	<p>事例研究に加え、教科書による勉強会を行い、職員の共通認識を図っている。日常的には抑圧感のない対応を心掛け、職員が徹底した見守りを行っている。玄関はチャイム式にして開放しているが、事前に行動をキャッチして、職員が付き添っている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> どのような事が虐待になるのか学習している 「虐待防止」に関連した研修会があれば参加して、スタッフへ伝達している 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・勉強会の中で成年後見人制度や支援事業について勉強している ・利用者の例をあげ、後見人制度を利用するとどのようになるのか伝えている		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居時契約の際、契約書の全ての内容について説明し、納得されれば署名押印をしていただく		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族会、運営推進会議で利用者家族の意見を聞いている	家族には出来る限り面会を求めたり、利用者の変化や状況を電話で連絡して、コミュニケーションをしっかりとっている。困難な家庭には「さくらだより」を活用し、家族と利用者の絆を深める為の支援を心掛けている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎日職員会議を開き意見を求め、又、代表者は一年に一回程度スタッフ一人ひとりと面接を行って意見を求めている	代表者は極力職場に顔を出し、職員と一緒に行動して、日常的に職員とコミュニケーションをとり、職員間の調和に配慮している。パート職員は「働きやすい職場で意見も言い易い」と話してくれた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・有資格者や役職者は給料が優遇されるので無資格者にも積極的に資格等の取得を促している		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・グループホーム協会や町役場等からくる研修案内等から個々に合った研修に参加してもらい、ホーム内で報告や実施等をしてもらっている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・見学に行く ・研修会に参加し、交流を持つ		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・初人居時の心理や我が家に住めない状況の不安、家族との絆、頑張ってきたことの敬意を示し、安心して生活できるように本人の気持ちを引き出していけるよう努めている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・初回の家族の出会いを大切にして、家族が介護の苦労を共感し、心の葛藤を理解して家族の意向に沿い、信頼関係に努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・心身の認知症状が環境によって一時変化しないかと言う不安を解消していく支援に努め、安心して生活できるサービス対応に努めている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・常に本人の家として共に仲間としてやすらいで生活できる「自分の家みんなの家」として職員も接する大切さを試みかけ実行している		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族と本人の絆を大切に考えて、快い場面を提供できるようにしている 又、共に悩みを話し合い、プラス面をお伝えして喜びを分かち合うように努めている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・日常生活の中に実行することが難しいこともあるが面会にはいつでも会えるようにしている ・馴染みの場所の外出は必要時やニーズに応じて実行している	訪ねて来た人には遠慮なく会話が出来、プライバシー保護の為に別室を提供し、心おきなく過ごして頂けるようにしている。家族が連れて出られることもあったり、大勢の人達で訪問することもある。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・一人ひとりの孤立を防ぐため、常に平等に声掛けや対応を聞き「みんな家族である」思いを持ち、具体的に工夫して実行している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・ターミナル、入院で契約が切れても支援に満足して頂いたかどうかを大切にしている為、その後の家族のつながりを保つように努めている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・一人ひとりの個性を尊重して本人らしく生活してもらうことに力を入れている ・困難な課題がある時、本人のことを中心に配慮して検討している	バックグラウンド記録を読んで職員は共通認識を持っている。個性を尊重しながら、ゆっくり会話する中から本人や家族の思いや希望、あるいは心配事等を引き出していくことを心掛けている。	介護計画の承諾を得る方法として、計画用紙に署名捺印をもらっているが、承諾書を別紙(A-4版)にして承諾印と共にホームのケアや職員の関わりによる本人の様子等を自由に書いてもらえる様式も考えて見ると良いと思う。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・生活歴、地域のつながりを職員に理解してもらい、入居した経過も支援する上で把握することが必要なため、より良いサービスのため実行している		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一日一日が生き生き活気のある笑顔が見える日常になるよう心身の健康状態を観察して体調の安定に努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・家族に日常の暮らしや支援内容を見直して家族、スタッフと話し合い、関係者の意見やアイデアを介護計画に取り入れている	2ユニット兼務のケアマネを中心に、管理者の職種を最大限に活かしながら調和させた計画書となっている。家族には「さくらだより」で情報を提供し、意見は介護プランに反映させている。	介護記録の中にモニタリング欄を設けることによって職員が記録を書く目標が定まってくる。それを介護計画を作る元にして欲しい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別記録が実践に活かされるように工夫をしているが、気づきや情報が一層明確になることが望ましい ・引継ぎの実用性を活かしている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人、家族のニーズが高い場合も積極的に話し合い、出来る限り受け入れていく姿勢をとっている ・職員のチームワークで可能になっている事がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>散歩やドライブにより、地域で生活していることを認識してもらっている</p>		
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>介護職員からの報告書により利用者の状態を把握し、かかりつけ医との連携ができています</p>	<p>専門医の受診はかかりつけ医師の指示を受けてから行い、初回受診は家族が対応し、事後の通院はホームが対応している。常勤の看護師と医師との連携が密に行われるので、利用者、家族は安心している。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>カンファレンス等により日常の状態を看護職に報告し、指示を受け行動できている</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>看護職員が中心となり、医療機関との連絡体制を密にしている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>利用者家族や関係機関との話し合いを持ち、本人家族の希望に沿った方針を共有している</p>	<p>開設以来、両棟で5名のターミナルを実施し、家族から感謝されている。今後も医療、家族、地域、職員との連携と理解を深め、山間地特有の家族関係や生活環境の様々な困難なニーズに応えていきたいと考えている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>看護職員によるケースカンファレンス及び初期対応の教育を実施している</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的な避難訓練を通して全職員が周知している</p> <p>連絡協議会を通して地域協力をお願いしている</p>	<p>運営推進会議の中から提案された夜間想定避難訓練と非常口の段差解消工事は完成している。色々な災害を想定し、地域の方にも参加してもらって、役割の分担を理解してもらっておくことも重要だと思う。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの残された能力に合わせて出来る事をしてもらう	初回アセスメントで本人の情報を得て対応している。トイレ、入浴中の配慮、居室のプライバシーは衝立で仕切る等、必要に応じて対応している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ある程度の意思を確認して、それぞれの思いを自分で決められるようにしている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝、本人が起きたい時、食事を食べたい時等を本人の希望に沿って支援している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性だったら髪を結んだり口紅を付けたりすると喜ぶ顔が見れたりするので、本人が望めば努めてするようにしている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が食べた残り、完食したものをチェックし、それを元に料理献立を考えるようにしている	職員が心を込めて手作りし、3菜1汁と主食のメニューを維持している。食材の形態を崩さず、見た目にも配慮する。中庭で作った野菜が話題に上がることもあるし、にぎり寿司パーティーなど変化も楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に食べる量、嗜好は出来るだけ応じるようにしている 水分摂取に異常があれば、一日のトータル量をチェックしている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員に毎食後の口腔ケアを実施している 就寝前は口腔ケアしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> 可能な限りトイレでの排泄が出来るように工夫する 排尿チェック表をつける 	排泄記録に基づいたトイレ誘導のたゆまぬ努力によって、生活リズムが整ってきた事を職員が実感している。過去に、おしめからパンツに改善した事例に感動し、諦めずに誘導の努力をすることを目標にしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 水分補給を充分にする 排便チェック表をつける 		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 入浴前後の健康状態をチェックする 利用者に対し、声掛け等細かい配慮をする 	隔日交替で入浴している。入浴困難な日は足浴や半身洗浄で清潔を保持している。入浴時間をゆっくりと楽しんで頂くサービス精神の確立が、このホームの目指していこうとしているところである。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> 健康状態をチェックし、気持ちよく休んでもらう 室温に注意する 		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 食後、名前を確認し服薬してもらう 服薬チェック表をつける 		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の皮むき、洗濯物をたたむ等出来る事をしてもらう 		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 天候、体調を考慮し希望に添い散歩に出掛ける スタッフと共に外食に出掛ける 	田園の中に存在していて、周辺は四季の変化が楽しめる。ふらりと玄関を出て行く利用者にそっと職員が寄り添っている。ユニット間の自由な往来はちょっとした気分転換になっているので、大切に考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 家族からの依頼によりお金を預かり、預かっている事を本人に知らせ、本人の希望により預かったお金を見せつける事もある 義歯洗浄剤、芳香剤、衣類等に使用させて頂き出納帳に記帳する 		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 本人の希望に応じ、本人又は代理が家族に電話をかける 家族からの年賀状、暑中見舞い等は本人に手渡しする 		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> 温度、採光、換気等の環境整備を行い、気分転換を図る リビング、居室の壁飾りなど季節感のある飾りをして 	建物の中の配慮に止めず、居室の窓を開放し、農家の作物の生育ぶりや、米の収穫作業を見て楽しめる環境を活かしている。身体症状に合わせた机や椅子の調整も十分であり、利用者は不自由の中でも安心して過ごせている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> 居室には名前、目印をつけて分かるようにして特に便所は分かり易く表示している 休みたい利用者はリビング内の畳コーナーでくつろいでいただく 		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> 入居の際には家のものを持参する様説明する 家族の写真を貼ったり、寝具やベッドは本人にあった物を使用し、落ち着いて生活出来るようにしている 	風通し、採光も良好。リビングで過ごす利用者の部屋はオープンにされているが、違和感はなく、閉塞感も感じない。「自分の家みんなの家」は理念通り心地良さと仲間意識が表出されていると感じた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> 洗濯物をたたんでもらったり、野菜や掃除や皮むきをする等それぞれの利用者の得意分野を利用して生活している 		